

沖縄島でコガタルリハムシの発生を確認

末長晴輝¹⁾・盛口 満²⁾・重藤裕彬³⁾

¹⁾ 〒710-0807 岡山県倉敷市西阿知町 833-8 サンシャイン A205

²⁾ 〒902-0066 那覇市大道 95-707

³⁾ 〒900-0001 沖縄県那覇市港町 2-11-1 那覇植物防疫事務所

First Record of *Gastrophysa (Gastrophysa) mannerheimi* (Stål) from Okinawa-jima Is., Japan

Haruki Suenaga, Mitsuru Moriguchi and Hiroaki Shigetoh

コガタルリハムシ *Gastrophysa (Gastrophysa) mannerheimi* (Stål, 1858) は北海道, 本州, 佐渡, 四国, 九州, 奄岐, 対馬, 平戸島, 甌島, 奄美大島に分布し, 海外では極東ロシア, 中国, モンゴル, 台湾, インドシナから知られている (Kimoto & Gressitt, 1966; Löbl & Smetana, 2010; 滝沢, 2007). 北海道から九州にかけては普通に見られ, 成虫は3月から発生しギシギシ類の葉上で小ぶりで可憐な姿を目にする春の風物詩といえるハムシのひとつである (滝沢, 2007). 北海道ではエゾノギシギシ *Rumex obtusifolius* (タデ科) の防除をするために本種の放飼が行われたこともあった (筒井ほか, 1988). しかし, 奄美大島以南の南西諸島からはこれまで記録が知られていなかった. 今回, 筆者らは沖縄島の北部で本種を確認したので, 移入の可能性も視野に入れ, 発見の経緯も含めて報告する. また, 那覇植物防疫事務所内に1999年に得られた本種の標本も確認したので, 併せて記録する. この標本は, 採集者から那覇植物防疫事務所へ提供されたものである. なお, 沖縄島からの記録は本報が初記録になると思われる.

検視標本

2 exs., 沖縄県本部町具志堅, 29. III. 1999, C. Ishimime, M. Aizawa & A. Hamagami 採集・那覇植物防疫事務所保管.

4 exs., 沖縄県本部町八重岳, 18. III. 2018, 幼虫採集, 26. III. 2018 羽化, 盛口採集・末長保管 (図1).

2 exs., 沖縄県国頭村奥間, 29. III. 2018, 盛口満採集・末長保管.

発見の経緯について

筆者のひとりである盛口は, 2018年3月18日に八重岳で地衣類の調査を行ったところ, 山頂付近のギシギシ類 *Rumex* sp. で見慣れない黒いハムシと

思われる幼虫を見つけた. これまで沖縄島で見たことがないコガタルリハムシと考え, 末長に問い合わせたところ, 本種の可能性が高いとの返事を受けた. そこで飼育を行ったところ, 3月26日に羽化しコガタルリハムシと同定された. その後, 3月29日に再度北部で調査を行ったところ, 国頭村奥間のゆいゆい国頭裏手にある放棄水田のギシギシから本種の成虫を確認した. より広範囲な調査を行う必要があると考えた盛口は, 3月29日に範囲を広げて調査を行ったところ, 4月8日に放棄水田に近い草地で多数の本種を確認した. そこから南下し大宜味村や名護市, 宜野座村, 金武町, うるま市, 那覇市でも探索を行ったが, 確認はできなかった. 盛口が本種の調査を行った地点について, 表1にまとめた.

那覇植物防疫所で検した標本は1999年に本部町で得られたものであり, 2018年春の調査においても本部町と国頭村の一部でしか生息が確認されなかったため分布は本島の一部に限られていると考えられた.

本種について, 過去に記録がないことや古い標本が見当たらないことから, 移入の可能性も考慮する必要があると考えられる. 一方で, 本種が本土部ではきわめて普通種である点から, 沖縄島でもこれま



図1. 沖縄島産コガタルリハムシ.

表1. コガタリハムシの調査地点と確認の有無について。

年月日	場所	個体数	状況
2018年3月18日	本部町八重岳	4幼虫	八重岳山頂付近のギシギシで幼虫が複数確認され、うち4 exs. が3月26日に羽化。
2018年3月29日	国頭村奥間	2 exs.	ゆいゆい国頭裏手のイグサを栽培していた放棄水田に、点々とギシギシが生えていた。そこに発生していた成虫が確認された。
2018年4月8日	国頭村奥間	多数	3月29日に本種を確認した地点の周辺を探索し、数百メートル離れた草地で多数のギシギシを確認し、多数の本種も確認された(図2-5)。
	大宜味村喜如嘉	—	田んぼがあるので、みてまわるが、田んぼの周囲にはギシギシは見当たらず。唯一旧喜如嘉小学校近くの路傍でギシギシをみるが、ハムシは見当たらず。
	名護市源河	—	車道わきでギシギシを確認するも本種は確認されず。
	名護市真喜屋	—	交差点周辺でギシギシを確認するも本種は確認されず。
	宜野座村漢那農村公園	—	路傍にギシギシが若干あるのが確認されたが、本種は確認されず。
	宜野座村 漢那ダム湖畔公園	—	ごくわずかにギシギシがあるのが確認されたが、本種は確認されず。
	金武町屋嘉	—	休耕田にギシギシの群落があったが、本種は確認されず(図6)。
	うるま市石川市民の森	—	芝生にギシギシが点在していたが、本種は確認されず。
	那覇市真嘉比遊水池	—	路傍にギシギシがあったが、本種は確認されず。



図2. コガタリハムシがみられたイグサの放棄田(国頭村奥間)。



図3. ギシギシの葉を食べるコガタリハムシの成虫(国頭村奥間)。



図4. ギシギシの葉を食べるコガタリハムシの幼虫(国頭村奥間)。



図5. コガタリハムシに加害されて褐変したギシギシ(国頭村奥間)。



図6. 金武町の休耕田のギシギシ。コガタリハムシの発生は確認されなかった。

で得られていたものの、特に気に留めることもなく記録されるに至らなかった可能性も考えられる。そのため、各大学や博物館等に収蔵されている古い標本の調査も必要であると考えられる。加えて、沖縄島での今後の分布状況の変化に留意する必要があると考えられる。

謝辞

本報を執筆するにあたって、コガタリハムシの分布について情報提供をしてくださった(国研)農研機構九州沖縄農業研究センター(糸満駐在)の吉武啓博士、沖縄県病害虫防除技術センターの河村太氏、沖縄県畜産研究センターの担当者の方、東京都の南雅之氏、本報の校閲をしてくださった埼玉県の滝沢春雄博士に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- Kimoto, S., & J. L. Gressitt, 1966. The Chrysomelidae of the Ryukyu archipelago. *Pacific Insects*, 8 (2) : 467-577.
- Löbl, I., & A. Smetana, 2010 (eds.). *Chrysomeloidea. Catalogue of Palaearctic Coleoptera*, 6. 924 pp. Apollo Books, Stenstrup.
- 滝沢春雄, 2007. 日本産ハムシ科生態覚書(2). 神奈川虫報, 小田原, (157) : 17-26.
- 筒井 等・早川博文・後藤千枝・花田 勉, 1988. 北海道十勝地方におけるコガタリハムシの発生. 北日本病虫研報, 39: 203-205.

(2019年1月10日受領, 2019年2月14日受理)

【短報】エゾクロチビオオキノコの本州からの記録

エゾクロチビオオキノコ *Tritoma miyatai* Narukawa, 2010 は、北海道で採集された標本に基づいて記載された種(Narukawa, 2010)であり、原記載以降の記録はない。本種は一見、クロチビオオキノコ *Tritoma niponensis* (Lewis, 1874) に似るが、小顎髭(図2)が黄褐色でその末端節の幅が長さの約2倍であること等から区別される(Narukawa, 2010)。

筆者は、長野県において本種を採集しているので、本州初記録として以下に記録する。なお、全ての個体について、筆者採集・保管。

4 exs., 長野県千曲市冠着山, 19. V. 2017; 1 ex., 長野県東筑摩郡筑北村一本松峠, 11. XI. 2017.

採集地はいずれもアカマツ林であり、冠着山では広葉樹(樹種不明)枯れ枝に生えたキノコ(種不明)より、一本松峠ではリターのツルグレンにより採集した。

末筆ながら、採集地を紹介して頂いた安達誠文氏(長野市)及び本種と同定頂いた生川展行氏(鈴鹿市)に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Narukawa, N., 2010. Two new species of the genus *Tritoma* (Coleoptera, Erotylidae) from Japan. *Japanese Journal of systematic Entomology*, 16 (2) : 285-290.



図1-2. 長野県産エゾクロチビオオキノコ。(1:背面, 2:小顎髭)。

(矢崎耀一 388-8007 長野市篠ノ井布施高田652-1-303)